

第 24 回日本 EV フェスティバル
(Japan EV Festival2018)
開催結果報告書

2018 年 11 月 20 日

一般社団法人 日本 EV クラブ

156-0043 東京都世田谷区松原 2-20-10-401

TEL:03-5376-8446 FAX:03-5376-5310

第 24 回日本 EV フェスティバル開催結果

- 日時: 2018 年 11 月 3 日(土・祝) 8:00~16:30 (天候: 晴れ)
- 場所: 筑波サーキット コース 1000
- 主催: 一般社団法人日本 EV クラブ
- 後援: 環境省 国土交通省 経済産業相 茨城県 茨城県下妻市 (一財)日本自動車研究所
- 協賛: 曙ブレーキ工業(株)、住友ゴム工業(株)、ダイハツ工業(株)
(株)東京アールアンドデー/(株)ピューズ、日産自動車(株)、(一社)日本自動車連盟、
ビー・エム・ダブリュー(株)、フォルクスワーゲングループジャパン(株)、
ボルボ・カー・ジャパン(株)、本田技研工業(株)、三菱自動車工業(株)(50音順)
- 協力: 一般財団法人日本オートスポーツセンター、トヨタ自動車(株)
- テーマ: REDUCING CO₂/CO₂ 削減&アクセル全開

- 参加人数: 820 名 (トライアル参加者、一般入場者、プレス、招待者含む)
- 参加総台数: 59 台
 - ・ 手作り EV チャレンジ/展示参加台数 [33 台]
 - ・ メーカー製 EV オーナーズタイムアタック参加台数[6 台]
 - ・ メーカー展示&試乗会(EV、PHV、FCV 等)[20 台]

* このイベントは、スポーツ振興くじ助成金を受けて開催されました。

 イベント内容

1) コンバート EV1 時間ディスタンスチャレンジ (エントリー12 台)

手作りのコンバート EV(電気自動車)による 1 時間耐久チャレンジ。

鉛電池クラスとリチウムイオン電池クラスの、バッテリーの種類が異なる 2 クラスがあります。クラス混合、ハンディなしで走行し、クラス別に表彰します。ピットイン 5 回以上、ピットイン毎にドライバー交替が義務で、ドライバー人数は無制限とし多くの仲間と参加できるようにしています。レース中のバッテリー交換、充電は禁止、地球温暖化クイズの結果を反映するなど独自のルールを設けた、フェスティバルの原点とも言うべきモータースポーツです。

今回のエントリーは 12 台、その内 4 台が初参加でした。鉛電池クラスは 3 台、リチウムイオン電池クラスは 9 台でした。今回鉛電池クラスは、すべて学校(大学/自動車大学校)チームでした。リチウムイオン電池クラスは、個人や会社の仲間のチームなど、多彩なチームが集まりました。1 周 1km のコース 1000 は、全体が見渡せるサーキットなのでレース展開もよくわかり、見学者もチームメンバーと一緒に楽しむことができます。レースは、スタートできなかった車両がいたため、赤旗再スタートとなり、46 分レースとなりました。リチウムイオンクラスは TAISAN PORSCHE916 が昨年に続き優勝を果たしました。

* 結果:

リチウムイオン電池クラス優勝: No.11「TAISAN PORSCHE916 (Team TAISAN CTS)」(46 周)
鉛電池クラス優勝: No.1「タイサンCTS PORSCHE (中央自動車大学校)」(30 周)

Japan EV Festival 2018 Report

2018.11.20

いっぱい乗せたで賞;No.2「千葉県自動車総合大学校(ViViO-EV・FR)」(13名)
 ファステストラップ賞:No.14「千葉県自動車大学校(千葉県自動車大学校EVシルビア)」(48秒174)
 チャレンジ達成賞(自ら設定したチャレンジを達成したチームに授与):5チーム

2) ERK30分耐久チャレンジ(エントリー16台)

コンバートEV1時間ディスタンスチャレンジと同じく、フェスティバルの人気トライアル。手作りの電気レーシングカート(ERK)による30分耐久チャレンジ。バッテリーの交換回数、セット数は無制限。ドライバー人数も無制限。

鉛電池搭載48VのERK-1クラス、72VのERK-2クラスとリチウムイオン電池搭載のリチウムイオン電池クラスの3クラスを設け、クラス別に表彰しました。ピットイン5回以上、ピットイン毎に必ずドライバー交替を義務付け、ドライバー人数は無制限としました。バッテリーセット数は無制限ですが、リチウムイオン電池クラスはバッテリー交換せずに走行していました。ERK-1(5台)、ERK-2クラス(3台)、リチウムイオンクラス(8台)が出場。今年もデットヒートが繰り広げられ、勢いあまってコースアウトする車両もあり、かなり迫力のある30分耐久レースとなりました。

*結果:ERK1優勝;No.31「ODYSSEY JKB ERK(Energysys Feat.あわネレーシング)」(28周)

ERK2優勝:No.43「SCR+type1,0(ミツバ)」(31周)

リチウムイオン電池クラス優勝:No.64「TSM-ERK-A01(トヨタ東自大 自研部)」(36周)

ファステストラップ賞:No.64「TSM-ERK-A01(トヨタ東自大 自研部)」(40秒799)

いっぱい乗せたで賞No.67「DGC-II(DENSO-ERK)」 10名乗車

チャレンジ達成賞(自ら設定したチャレンジを達成したチームに授与):4チーム

3) 何でもEV展示(5台) /ベンチャーデモ(1台)

何でもEV展示に、常連のオリジナル立て乗りEVと学生フォーミュラEVが登場しました。

また、日本EVクラブの電友1号とkidsERKもデモ走行を行いました。Kids ERKは、親子電気レーシングカート組立&試乗教室用に作られた子供用の電気カートです。

パフォーマンス賞は、トヨタ東自大の「TSF18E」が受賞。

ベンチャー展示参加のOZモーターズのEVビートルもデモ走行を行いました。

4) 自動車メーカー製EVオーナーズ・タイムアタック(6台)

EVは速いと言われていますが、自分のEVはどのくらい速いのか。オーナー自身が自分で確かめてみるのが、このトライアルです。予め決められた基準タイム(1分)より速いと失格、ギリギリまで基準タイムに迫ったドライバーが優勝です。

優勝は、1分00秒117の素晴らしいタイムでゴールした古川元樹さん(三菱i-MiEV)でした。

5) 自動運転競技車タイムアタック ※エントリー:2台

自動車の自動運転化の動きに先駆けた、自動運転競技車によるサーキットタイムアタックを昨年に引き続き開催。車両規則は「人が乗れる大きさであること」、ラジオコントロールでの走行も許されます。今年もアレス(Team R-T)と、MM1号2018(プロジェクトM)の2台の自動運転競技車が登場。

ステアリングもシートないERKが無人で走る姿に多くの観客が注目をしました。今回アレスは残念ながらコースアウト。MM1号2018は完走しましたが、11分かかりました。

6) 環境 EXPO／EV・プラグインハイブリッド車・FCV サーキット試乗会

自動車メーカー等による自動車における環境問題解決技術をテーマとした展示。今年は7社が出展しました。今回も、環境EXPOプレゼンテーションを行い、環境への取り組みや、環境対策製品などの解説をしていただきました。

今回の試乗会も昨年好評いただいたサーキットでの試乗を行いました。試乗車15車種を用意、全試乗枠186枠のうち180枠が埋まる盛況ぶりでした。

今回も、ジャーナリストが隣に乗ってサーキットの走り方や最新のEV・プラグインハイブリッド車・FCVの特徴を解説、また特性を引き出す乗り方をレクチャーしました(e-ドライビングレッスン)。

参加者からは、「EVやプラグインハイブリッドの特徴がよくわかった」、「サーキットを気持ちよく走行でき、EVの走りを体感できた」と好評をいただき、EV／プラグインハイブリッド／FCVの魅力を実感してもらうことができました。

また、日本EVクラブ会員でベンチャー企業の出展ブースを儲け、自社製品の展示を行いました。

□出展企業

日産自動車(株)、ビー・エム・ダブリュー (株)、フォルクスワーゲングループジャパン(株)、ボルボ・カー・ジャパン(株)、本田技研工業(株)、三菱自動車工業(株)、トヨタ自動車(株)

■出展/試乗車両

日産自動車(株):リーフ、リーフNISMO、ビー・エム・ダブリュー(株):330e、MINI Cooper S E Crossover、フォルクスワーゲングループジャパン(株):e-Golf Premium、Passat Variant GTE、Golf GTE、ボルボ・カー・ジャパン(株):XC60 T8 Twin Engine AWD、V90 T8 Twin Engine AWD、本田技研工業(株):Clarity PHEV、三菱自動車工業(株):アウトランダーPHEV S Edition、i-MiEV、アウトランダーPHEV G Premium Package、トヨタ自動車(株):MIRAI、プリウスPHV

日本EVクラブ:EVスーパーセブン、電友1号、Kids ERK

試乗会参加ジャーナリスト(順不同・敬称略):津々見友彦、片岡英明、斎藤慎輔、石井昌道、斎藤聡、諸星陽一、吉田由美

●ベンチャーテント:OZ MOTORS:EVビートル

7) CO2排出量診断

CO2 排出量診断コンテスト(自宅から日本 EV フェスティバル会場まで来るまでに排出した CO2 を診断)は、徒歩で来場した茨城県の方とEV、FCV で来場してくださった 6 名が、排出量「0」で表彰されました。日ごろから CO2 排出量が少ない交通手段を心がけるよう呼びかけました。

Japan EV Festival 2018 Report

2018.11.20

□取材・露出媒体一覧

[雑誌・WEB マガジン]

・WEB CAR TOP 2018年10月22日

電気自動車の祭典「第24回日本EVフェスティバル」が11月3日に筑波サーキットコース1000で開催

・YAHOO!JAPAN ニュース 2018年10月22日

電気自動車の祭典「第24回日本EVフェスティバル」が11月3日に筑波サーキットコース1000で開催

・goo ニュース 2018年10月22日

電気自動車の祭典「第24回日本EVフェスティバル」が11月3日に筑波サーキットコース1000で開催

・dメニューニュース(NTTドコモ) 2018年10月22日

電気自動車の祭典「第24回日本EVフェスティバル」が11月3日に筑波サーキットコース1000で開催

・ライブドアニュース 2018年10月22日

電気自動車の祭典「第24回日本EVフェスティバル」が11月3日に筑波サーキットコース1000で開催

・carview! 2018年10月22日

電気自動車の祭典「第24回日本EVフェスティバル」が11月3日に筑波サーキットコース1000で開催

・ニコニコニュース 2018年10月22日

電気自動車の祭典「第24回日本EVフェスティバル」が11月3日に筑波サーキットコース1000で開催

・JAF Mate Park(Park blog) 2018年10月29日

【日本EVフェスティバル2018】11/3、今年も筑波サーキットにEV集結！自動運転車タイムアタックや、EV・PHEV試乗会。見て乗ってEVを満喫！

<http://jafmate.jp/blog/news/181029.html>

・JAF Mate Park(Park blog) 2018年11月12日

【同乗してみた動画】ジャパンEVフェスティバル2018「EVスーパーセブン」で筑波サーキットコース1000を走ってみた！

<http://jafmate.jp/blog/snasna/181109-2.html>

・Auto MesseWeb 2018年11月6日

斬新な発想が満点！エンジンからモーターに寄せ換えた電気自動車13モデル

Japan EV Festival 2018 Report

2018.11.20

・carview! 2018年11月6日

斬新な発想が満点！エンジンからモーターに寄せ換えた電気自動車 13 モデル

・Auto MesseWeb 2018年11月8日

チームタイサンで「電気自動車のレース」で記念すべき通算 80 勝目を獲得

・carview! 2018年11月8日

チームタイサンで「電気自動車のレース」で記念すべき通算 80 勝目を獲得

以上



開会式



コンバートEV



コンバートEV1時間ディスタンスチャレンジ



ERK30分耐久レース



何でもEV展示 (学生フォーミュラEV)



パドック



EV・PHEV・FCVサーキット試乗会



EV・PHEV・FCVサーキット試乗会



EV・PHEV・FCVサーキット試乗会



EV・PHEV・FCVサーキット試乗会





環境EXPO



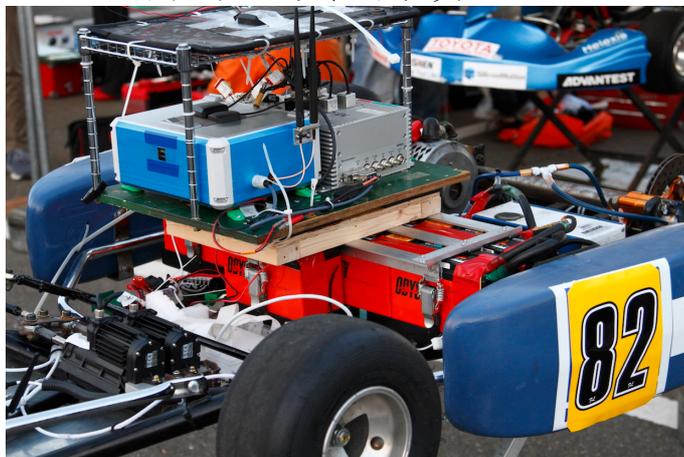
ベンチャーテント



EVオーナーズタイムアタック



自動運転車タイムアタック



表彰式



閉会式

「一人でも多くの方に災害情報を届ける」ヤフーの災害協定

Yahoo! JAPAN ヘルプ

ウェブ検索

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン

キーワードを入力

ユーザーページ

購読一覧

トップ

速報

写真

映像

雑誌

個人

特集

原稿調査

ランキング

有料

雑誌トップ

新着記事一覧

雑誌媒体一覧

電気自動車の祭典「第24回日本EVフェスティバル」が11月3日に筑波サーキットコース1000で開催

10/22(月) 16:02配信



電気自動車の魅力を存分に味わえるイベント！



電気カートなどによるEVレースが催される

EVを中心にエコカーの普及活動を進める一般社団法人日本EVクラブは、11月3日(土・祝)に「第24回日本EVフェスティバル」を茨城県・筑波サーキットコース1000にて開催する。

【写真】こんなクルマも電気自動車にコンバート！

ポルシェ916などをEV化し、手作りEV車による1時間耐久レースを開催。また、電気レーシングカート「ERK」を用いた30分の耐久レース、あらゆるEV車の展示、そしてERKをベースに自動運転車を自作し、タイムアタックを行うなど、EVの今を感じられるイベントだ。

また、市販EV車のタイムアタックや、市販最新モデルのサーキット試乗会も開催される。試乗会は同乗したジャーナリストから、EV車の運転の仕方などを指南してくれるレッスン付きという贅沢なもの。モータースポーツの楽しさを味わうことが可能だ。

また、日本EVクラブ創設のきっかけとなった、20年前に誕生した電気フォーミュラカー「電友1号」もデモラン。日本の電気自動車の歴史を垣間見ることができる。ぜひ筑波サーキットで電気自動車の魅力を体感してみたいだろうか。

詳しいイベントなどは公式HPへ。

<http://www.jevc.gr.jp/>

開催概要

日時/2018年11月3日(土・祝日) 8:45~16:30

場所/筑波サーキット・コース1000

茨城県下妻市村岡乙159 TEL: 0296-44-3146

後援(予定)/環境省 国土交通省 経済産業省 茨城県 茨城県下妻市 一般財団法人日本自動車研究所

墓石の震災被害 復旧支援のご案内

- a.震災で墓石を破損された方
- b.震災で他者の墓石を破損させた方
- c.耐震免震施工を追加されたい方

下屋千鳥 札幌営業所

YAHOO! JAPAN トラベル



ホテル ユニバーサル ポート
3,500円~ (476件)

雑誌アクセスランキング (経済)

- 1 ゴーンが「虚偽記載」で逮捕された本当の意味
東洋経済オンライン 11/21(水) 14:20
- 2 「退職代行サービス」が続々生まれる深刻理由
東洋経済オンライン 11/21(水) 6:00
- 3 タイミング最悪「ゴーン逮捕」にフランス動揺
東洋経済オンライン 11/21(水) 5:50
- 4 ファミマ、ローソン、ユニーも撤退。現場が限界を迎えていた「ネットスーパー事業」の実態
週プレNEWS 11/21(水) 6:10
- 5 アマゾンが10年以内に失速する5つの理由
プレジデントオンライン 11/21(水) 9:15

PR 札幌で家庭教師をご検討なら | 家庭教師が各教科の基本から指導。札幌駅北口教室個別指導ClassSenior

スポーツ 2018.11.8

チームタイサン 「電気自動車のレース」で記念すべき通算80勝目を獲得

ツイート いいね! 0 シェア つぶやく Pocket 0 < 前の記事 次の記事 >

もうED治療で悩まないで!

ed-care-support.jp
EDの相談が出来る病院・医院が探せる<<日本新薬>>

薩摩川内市ふるさと納税/公式

furusato-kagoshima.com
日本一の和牛や黒豚、焼酎、本物の兜も! 鹿児島から産地直送! 全て実質2000円

Ads by Yahoo! JAPAN

1時間耐久レースで総合1位で優勝! チームメイトもクラス1位を獲得

晴天に恵まれた2018年11月3日の文化の日、茨城県の筑波サーキット・コース1000にて、今回で24回目となる電気自動車の祭典「日本EVフェスティバル」が開催された。ここで行われた1時間耐久レースに、SUPER GTなどに参戦するレーシングチーム「チームタイサン」が登場。チーム創立36年にして記念すべき通算80勝目を獲得した。

999台限定、アウディR8の2WDモデル「RWS」はクワトロと別モノ

「日本EVフェスティバル」はさまざまなプログラムが用意されているが、なかでも注目されているのがコンバートEVと呼ばれるモデルが登場するレース。コンバートEVとは、すでにエンジン車として発売されているモデルのエンジンをモーターに置き換えた(コンバート)電気自動車で、じつに多彩なクルマが登場している。

レースは1時間の耐久で、規定の1時間でもっとも長い距離を走ったチームが優勝となるルール。クラスは搭載バッテリーの違いにより「リチウムイオンクラス」と「鉛バッテリークラス」に分けられている。

バッテリーや駆動用モーターの搭載方法はさまざまなケースがあるが、ミッドシップ2シーターのポルシェ916の場合は、リチウムバッテリー2個とモーターをエンジンルームに搭載。さらにリアのトランクルームにバッテリー1個を設置している。



写真を拡大



写真を拡大



写真を拡大



写真を拡大

72 HOURS ONLY

PEUGEOT SUV WEEKENDS

チャンスは今週末、72時間だけ。

金利0%適用で
PEUGEOT 3008 GT BlueHDIが
月々 ¥9,300 から

詳しくみる

ニュースアクセスランキング

スポーツ

2018/11/17更新

- 1 レースクイーンに聞く「RQになってうれしかったこと」【第25回 LEXUS TEAM au TOM'S】
- 2 【F1メカ開発】まさに“走る実験室”。トロロツツ、来季のレッドブル・ホンダ始動に向け、シーズン終盤もフル活用
- 3 MotoGP : 2019年の暫定エントリーリストが発表。7人の日本人がフル参戦
- 4 ホンダ、中国向け電気自動車『理念 VE-1』を広州モーターショーで世界初公開

フロントのトランクルームには、バッテリーのほかシステム冷却用の発泡スチロールの箱に入ったドライアイス、バルクヘッドにコントロールシステムを搭載する。

午後2時にスタート時間を迎え、全車がグリッドからスタートしたかに見えた……のだが、グリッド上にスタートできないマシンが2台。さらに1コーナーにも1台のマシンが停止していた。レースは赤旗中断となり、コース上のマシンは全車ピットイン。動けないマシンは排除された。協議の結果、レースはスタート時間に関わらず午後3時のゴールとすることが決定。スタートが可能なマシンは再びグリッドに着いた。リスタートの時間は午後2時14分。46分間の戦いが始まった。

この耐久レースの大きなポイントとなっているのが、レース中に5回のピットインと同時にドライバー交代が義務づけられていること。競技時間は短縮されたものの、規定のピットイン回数そのままとなったため、チームはせわしないスケジュールでレースを運ばなければならなくなった。

スタート直後から多くのマシンがピットインするなか、ゼッケン「11（黄色のマシン）」のタイサン・ポルシェ916だけが走り続ける。ゼッケン「11」は、前半でリードを稼ぎ、規定ピットインは後半で一気に消化しようという作戦に出た。ラスト数分、あとせいぜい2周というタイミングで監督でチームオーナーの千葉泰常氏にステアリングを任せた。

コースに出た千葉氏、久しぶりのドライビングそして目の前の優勝に緊張したのか、スピンしかけてしまうが、リードを保ったままゴールした。じつはこの優勝。チームタイサンにとっては80勝目となる節目の優勝（総合、およびリチウムイオンクラス）となった。

レース後、千葉氏は「国光、健二の両高橋選手のコンビで挑みJSPC（全日本スポーツプロトタイプカー耐久選手権）で初優勝したときからじつに36年で80勝ができました。最近ではEVでないと勝てないけど、同じクルマでレースをやりづけるのはやっぱり意味があると思います。このEVレースで最初に使っていたポルシェ914は今では“タイサンCTSポルシェ”として中央自動車大学の生徒が参戦（ゼッケン1）。鉛バッテリークラスでも優勝でタイサンが2クラス制覇となりましたからなおさらうれしいです。目指すはチーム100勝ですね」と語ってくれた。



写真を拡大

すべての写真を見る (12枚)

5 ハミルトン、インドを「貧しい場所」とした発言に批判殺到。F1インドGPを振り返りSNS上で釈明



薩摩川内市ふるさと納税/公式
| 日本一の和牛や黒豚、焼酎、
本物の兎も！鹿児島から産地直
送！全て実質2000円
furusato-kagoshima.com



Ads by Yahoo! JAPAN

無料 未就業歯科衛生士支援
リハビリ研修セミナー
2018 12.8(土)

歯科衛生士の
仕事をもう一度!

札幌歯科医師会立 札幌歯科学院専門学校

TOKYO AUTO SALON
2019.1.11 FRI ▶ 12 SAT ▶ 13 SUN
MAKUHARI MESSE
YAHOO! JAPAN

軽・コンパクトカー
ランキング
powered by DAIHATSU

ステルヴィオで峠に挑む。
SUVの概念が変わる。

新登場
ニュース・新車・中古価格を
メーカー毎にまとめてチェック!!

ちなみに中央自動車大学の生徒のマシン（ポルシェ914）は、フロントとリアのトランクルームにぎっしりとバッテリーを搭載。いかにも重そうだが、搭載バッテリーのよってこれだけ違いがあるのだ。

関連記事

ドリフトの世界一決定戦がお台場で開催！惜しくも日本人は表彰台ならずのむけん、ラストラン！「涙と笑いに包まれたD1ファイナルお台場」土屋圭市氏が審査委員長を務める「ドリフトイベント最終戦」で大波乱斬新な発想が満点！エンジンからモーターに寄せ替えた電気自動車13モデル
SUPER GTドライバー「松田次生」が愛車でドリフト競技を走行

ツイート いいね！ 0 シェア つぶやく

Pocket 0

(Auto Messe Web 『Auto Messe Web編集部』)

Auto Messe Web

[次の記事] 元王者アラン・プロスト「ハミルトンが7回のタイトルを狙うかどうかは“個人的な決断”」



札幌市で欲しい車を激安で探せる

kuruma-satei.club

毎日500台の市場に出回らない中古車。60万台の非公開情報。なびくる／提携



糖代謝異常の意外な原因とは？

nagayoku.com

50代以上の血糖値が気になる方必見！食事制限と運動だけでは何が足りない？



労務でのキャリアを検討するなら

foresight.jp/sharoushi/

社内外の評価アップのため社労士を取る働きながら合格を目指す充実サポート！



薩摩川内市ふるさと納税/公式

furusato-kagoshima.com

本場の黒豚、黒毛和牛、焼酎、本物の兜！鹿児島から産地直送！全て実質2000円

Yahoo! JAPAN広告

コメントの多い記事

- 1 【シーマ レジェンド ディアマンテ…】ニッポンの高級車 クラウン以外だいたい沈没史 
- 2 【旧車・レクサス LFA】トヨタのイメージリーダーカーとして開発されたスーパースポーツ：日本のスーパーカー 第10回 
- 3 自動運転CMで総ツッコミの日産。ノートe-POWER動画にもモヤモヤするワケは？ 
- 4 採用車増加中！ヘッドランプウォッシャーの使い方 
- 5 米国チューナーが最新カローラスポーツをベースにAE86を再現 



いいね! ツイート G+

2018/11/12

【同乗試乗してみた動画】 ジャパンEVフェスティバル2018 「EVスーパーセブン」で筑波サーキット1000を走ってみた！



筑波サーキット1000を走る「EVスーパーセブン」。「ジャパンEVフェスティバル2018」では競技の合間に都合3回のEV・PHEV試乗会が設けられ、先頭を切って走ったのが「EVスーパーセブン」だ。

11月3日に筑波サーキット1000で開催された、日本EVクラブ取材のEVを楽しむイベント「ジャパンEVフェスティバル2018」(イベント内容については別記事『[【日本EVフェスティバル2018】11/3、今年も筑波サーキットにEV集結！自動運転車タイムアタックやEV・PHEV試乗会。見て乗ってEVを満喫!!](#)』に詳報)。その日本EVクラブがケータハム「セブン」をベースに、EVへのコンバート(改造)を行ったのが、同クラブを象徴するクルマである「EVスーパーセブン」だ。助手席に乗って撮影してきた動画を公開する。

「スーパーセブン」は、もともとロータスが1957年に発表したロードゴーイングカー「セブン」がベースだ。1973年からは小規模自動車メーカーのケータハムに引き継がれ、「スーパーセブン」として現在でも生産されているのである。



- 1 ニュース・プラス
「日産 GT-R 50 by イタルデザイン」にインスパイア！完全受注生産のグラウンドセイコーが登場
- 2 ニュース・プラス
長年愛されてきた名車「The Beetle」が2019年で生産終了。今までの感謝を込めたアート展開催！
- 3 ニュース・プラス
「道路交通法遵守見える化サービス」用の新型GPS端末に、準天頂衛星システム「みちびき」のサブメーター級測位精度を活用
- 4 くるナンデス
聖地の地下で行われる謎の儀式？ いえ、ビル駐車場で愛車を撮影してくれる「痛車スナップ」です！
- 5 ニュース・プラス
無印良品が自動運転バスをデザイン！2019年から実用試験運行を開始

Category / カテゴリー





試乗会のスタート前の様子。「EVスーパーセブン」のすぐ後ろのフォルクスワーゲン「バサート GTE ヴァリアント」から後ろは参加者が自らステアリングを握って走れたが、「EVスーパーセブン」は助手席で同乗走行した。

「スーパーセブン」は一見するとクラシカルなスタイルだが、エンジン出力に対して車重が軽いため、パワーウェイトレシオはとてつもない値になる。最高グレードの「スーパーセブン620R」は、310馬力(228kW)を絞り出すフォード製「デュラック2.0L」エンジンを搭載し、車重は545kg。パワーウェイトレシオは1.75だ。時速0→100kmの加速性能が2.8秒と、フェラーリ「488GTB」などに負けていない(『スーパーカーとかのゼロヒャク2~3秒の加速度を、誰でも分かるように考えてみた。』で解説)。

ただし「EVスーパーセブン」の場合は、モーターの出力が88.7馬力(65.3kW)と控えめで、車重はバッテリーを積んでいるために約730kgと重くなり、パワーウェイトレシオは8.23となる。しかし、モーター駆動ならではのダッシュ性能はもちろん素晴らしい。ドライバーによると、公道では5速ミッションの3速ホールドで街中から高速道路まで走れるという。ちなみに、モーターなので停車時もニュートラルに入れる必要はなく、3速に入れっぱなしだった。



もともとバケットシートとは腰をホールドするためにお尻を押し込むのがきついものだが、「EVスーパーセブン」のバケットシートは中でもきつく、180cmオーバー・体重80kgオーバーの記者が乗り込もうとしたところ、なかなかお尻が収まらず、シートベルトもなかなかはめられない状態に。乗り込み方も手順があり、まず狭いフットスペースに両足を入れてから腰を下ろすという、結構きつい姿勢を取る必要がある。先に腰を下ろしてしまうと足をフットスペースに入れられない。大柄な体格かつ身体の硬い人は乗るのに慣れが必要。

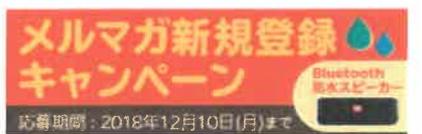
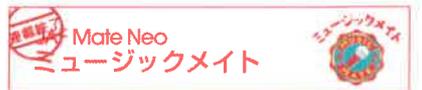
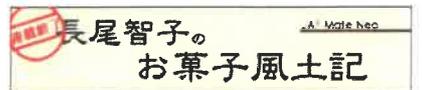
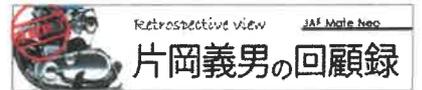
JAF Mate Neo
ぼくは、車と生きてきた



JAF Mate Neo
なんちゃってエジソン
名作十選



JAF Mate の読者が綴った
個性あふれる8作品はこちら!



今回は、2回連続で乗ることができたので、1回目は3速ホールドで、2回目は2速ホールドで走ってもらった。最高速度は時速80kmほどだそうだが、2速の方が加速感があり、身体が後ろに持っていかれる感覚が強かった。



「EVスーパーセブン」の助手席から撮影した走行の様子。コースは筑波サーキット1000。1回目の周回は、3速ホールドで走行。2回目は2速ホールドで走行。EVなのに時折大きなエンジン音が聞こえるのは、筑波サーキットの別のコースでガソリン車やバイクが走行しているため。

EVスーパーセブンのスペックは以下の通り。

【スペック】

ベース車:ケータハム「スーパーセブン270」(英国製)

ベース車全長×全幅×全高:3100×1757×1115mm

ベース車ホイールベース:2225mm

ベース車トレッド(前/後):1270/1336mm

改造後車重:約730kg

バッテリー:東芝製「SCiB」(13.2kW)

一充電航続距離:100~130km程度(実用想定値)

充電システム:急速充電(CHAdeMO規格準拠)、100V充電対応

モーター:Hi Performance AC50-01

最高出力:65.3kW(88.7馬力)

インバーター:Curtis 1238R

タイヤ:ヨコハマ製「BluEarth」

改造:日本EVクラブ/東北自動車株式会社(青森県八戸市)

2018年11月9日(JAFメディアワークス IT Media部 日高 保)

日本EVクラブ関連記事

● [【日本EVフェスティバル 2018】 11/3、今年も筑波サーキットにEV集結！自動運転車タイムアタックやEV・PHEV試乗会。見て乗ってEVを満喫!!](#)

● [白馬で行われた「ジャパンEVラリー」ってどんなイベントだったの？](#)

● [ジャパンEVラリー白馬その1BMW i3やテスラ モデルSに乗ってみた【動画あり】](#)

● [ジャパンEVラリー白馬その2アウディ、BMW、ベンツに乗った！欧州PHV試乗前編【動画あり】](#)

● [ジャパンEVラリー白馬その3VW、ボルボに乗った！欧州PHV試乗後編【動画あり】](#)

外部リンク